



校外学習で学ぶこと

校長 小俣 和也

学校では、普段の学習は教室や校庭など学校の中で行われます。しかし、学校外での教育活動もあります。特に1学期は、1～4年生の遠足、2・3年生の町探検、5年生の川場移動教室、ぽぷら学級の河口湖移動教室、6年生の社会科見学などたくさんあります。このような学校の外で行う校外学習にも、たくさんの学びがあります。

5月の朝会で、子どもたちに「校外学習で学ぶこと」について次の5つの学びの話をしました。

- ① 自分の目、耳、体を使って本物にふれて、自然の素晴らしさを感じることができる。(観察力・探究心)
- ② 遊んだり、運動したりして体力を高めることができる。(体力)
- ③ 疲れたときも、自分に負けない強い心を育てることができる。(主体性)
- ④ ルールやマナーを守るために、自分の頭で考え、進んで行動する力を付けることができる。(社会性)
- ⑤ 困ったとき、苦しいときに友達と助け合うことができる。友達のよいところを見つけたり気付いたりすることができる。(協調性・コミュニケーション力) などです。

こうした力は、将来の学びや社会生活の土台となる「非認知能力」と関係しています。非認知能力とは、テストの点数やIQのように数値で測定される「認知能力」とは異なり、自己制御力、協調性、やり抜く力、共感性、自己肯定感、人間関係力など、社会生活に深く関わる力を指します。これらの能力は、将来の職業的成功や幸福感にも大きな影響を与えるとされています。この非認知能力を育む場として、校外学習は非常に有効です。教室を離れ、地域社会や自然、文化施設などを訪れて行う体験的な学習活動は教科書だけでは得られない「生きた学び」であり、そこから子どもたちは多様な非認知能力を自然に身に付けていくことができます。しかし、重要なのは、単に活動を行うだけでなく、事前の準備や事後の振り返りを通じて、学びを深めることです。活動の目的を明確にし、活動後には感想や気づきを共有することで、非認知能力の定着がより確かなものとなります。本校でも行事などでは目標を大切に考えています。これからも、子どもたちの豊かな成長につながるよう非認知能力の育成を意識した教育活動を行ってまいります。

【重点目標の取組について】

| よく考え進んで学習する | 明るく思いやりのある | 進んで体をきたえる |
|--|--|--|
| 算数少人数学習 算数科では、1・2年生では取り出し学習を、3年生以上では少人数に分かれた学習を行っています。少人数に分かれることで、発言が活発になり、互いに学び合う姿がよく見られます。学年で分かれる習熟度別少人数グループの中で、進度をそろえて学習をするので、分からないことを質問しやすくなります。 | フレンドリータイム 1年生～6年生が縦割り班をつくり活動する「フレンドリータイム」が5月19日より始まりました。ねらいは、異学年交流の場で、互いに協力して、より豊かな学校生活を送ることです。下級生への思いやりがある6年生。しっかり準備し、楽しめるように工夫しています。 | 体力テスト 5月20～22日のテスト本番に向けて、自己の目標を設定し、「そしエク～体力テスト版～」に毎日取り組みました。体力テストは、3・4年生・ぽぷら学級、2・5年生、1・6年生で実施をしました。ペア学年のサポートを懸命に行い、友達を応援しました。自分の記録に一喜一憂する姿も見られました。 |